

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年10月15日（水）

2 確認箇所

- ・ 6号機原子炉建屋（図1）
- ・ 伐採木一時保管エリアH（図1）

3 確認項目

- （1） 6号機原子炉建屋における地震計の設置状況
- （2） 伐採木一時保管エリアHの状況

4 確認結果の概要

（1） 6号機原子炉建屋における地震計の設置状況

福島第一原子力発電所では、原子炉建屋や自由地盤※等に地震計が設置されている。観測結果は発電所の運用（関係各所への連絡・公表、地震後の区分に応じた点検）、建屋の振動特性分析及び過去の地震記録との比較等に利用されている。また、令和6年2月に6号機原子炉建屋に設置されている地震計の更新作業が実施されたことから、今回は更新後の地震計を確認した。（前回確認：令和7年3月10日）

- ・ 6号機原子炉建屋地下2階（基礎版上）及び2階に設置されている地震計を確認した。（写真1）
- ・ 確認した範囲では、地震計及びそれに接続するケーブルに異常等は認められなかった。

※自由地盤：構造物（建物など）が建っていない地盤のこと。ここに設置される地震計は、地面そのものの揺れ（＝自由地盤面の地震動）を観測する目的で使われる。

（2） 伐採木一時保管エリアHの状況

東日本大震災後に福島第一原子力発電所構内の敷地造成等により発生した伐採木は、構内の伐採木一時保管エリアで保管されており、増設雑固体廃棄物焼却設備の設置以降は焼却処理のためチップ化処理が進められていることから、今回、伐採木一時保管エリアH（以下「エリアH」という。）の現況について確認した。（前回確認：令和6年2月27日）

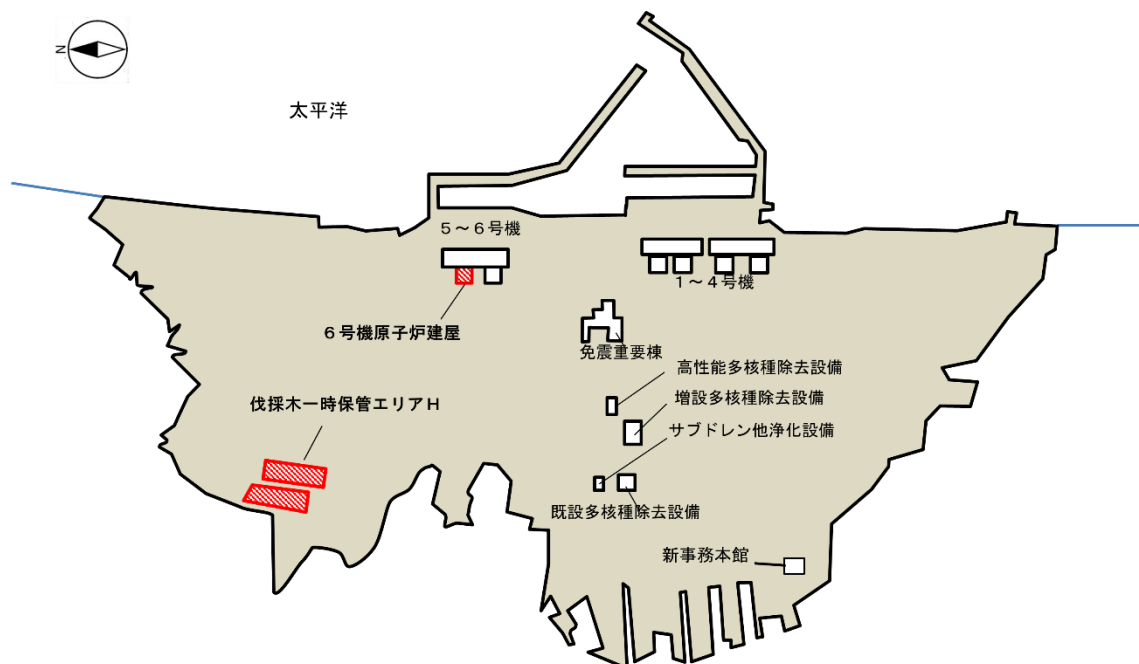
なお、エリアHは傾斜地を挟んで東側エリアと西側エリアに分かれており、東側エリアには伐採木（幹、抜根）及び小割されたベニヤ板等が保管されている。また、敷地の一部には瓦礫類を収納するための保管容器及び使用済フレキシブルホースが仮置きされていた。西側エリアには伐採木（幹、抜根）が保管されていた。

ア 東側エリア

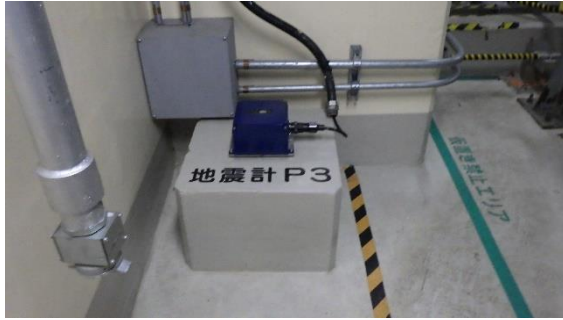
- 単管パイプ等で区画されており、火災対策のため消火用タンク及び消火器が設置されていた。（写真 2）
- エリア中央の伐採木が処理され、空き地が生じていた。（写真 3）
- エリア南側には、小割されたベニヤ板等が保管されていた。（写真 4）
- エリア北側には、破碎機で細断するために使用済フレキシブルホースが保管されていた。（写真 5）

イ 西側エリア

- 単管パイプ等で区画されており、火災対策として積み上げ高さが 5 m 未満に管理できるように高さ確認用のポールが設置されており、伐採木の積み上げ高さは 5 m 未満を満足した状態で保管されていた。（写真 6）
- 伐採木をトレーラーに積み込む作業を実施していた。（写真 7）



（図 1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1 - 1)
地震計の設置状況①
※地下 2 階



(写真 1 - 2)
地震計の設置状況②
※地下 2 階



(写真 1 - 3)
地震計の設置状況③
※ 2 階



(写真 2)
消火用タンク及び消火器の設置状況



(写真 3)
東エリア中央の状況



(写真 4)
東エリア南側のベニヤ板等の保管状況



(写真5)
東エリア北側のフレキシブルホース
保管状況



(写真6)
西エリアにおける高さ確認用ポールの
設置状況



(写真7)
西エリアにおける伐採木の積み込み
状況
※重機の奥にトレーラーがある。

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。